

はじめに

房総（千葉県）ではかつて草相撲が盛んに行われており、これまで数多くの力士を輩出してきました。房総は江戸・東京に近いこともあって、本職の力士たちによる華やかな相撲興行も、各地で盛んに行われ、それは若者たちの大相撲への憧れを促し、房総から多くの大相撲力士を誕生させるきっかけとなりました。

今回の展示では、房総の相撲について、古くから行われてきた各地の祭礼や盆などでの相撲行事のほか、江戸時代の興行相撲から現代の大相撲巡業、さらには県内四つの相撲部屋にいたるまで「房総相撲博覧会」と題して幅広く紹介いたします。

文書館所蔵の古文書や番付のほか、房総に関する力士の錦絵や古写真など、貴重な資料を紹介いたしますので、ぜひ、この機会に房総の相撲に触れてみてください。

最後になりましたが、今回の企画展を開催するにあたり、貴重な資料や情報をお寄せいただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

平成二十九年十月二十日 千葉県文書館長 目黒 敦

凡例 一 本図録は平成二十九年十月二十日から平成三十年三月十日まで開催する企画展「房総相撲博覧会」の展示図録です。

二 期間中に展示資料の一部を替えることがあります。

三 本展示と図録の編集・執筆は、当館県史・古文書課副主幹 米谷博が担当しました。

1 房総の相撲行事

房総各地では、寺社の祭礼や盆行事など、身近な場所で相撲が行われてきました。

特に寺院で行われる相撲としては、観音様との関係が強くみられます。人々を現世の苦しみから救ってくれる存在として、観音様は広く信仰され各地に祀られてきました。その縁起の中には漁の網にかかったとか、岸に流れ着いたという言い伝えがあり、その観音像の帰属を巡って、拾いあげた村と元の村が争い、相撲で決着をつけたといわれています。

飯沼観音（銚子市）、滑河観音（成田市）、八筋川観音（香取市）など水中から現れたという縁起を持つ観音様で、いずれも相撲行事と関わりがあります。また、水辺の妖怪河童についても、相撲と関わる伝説が各地に残っており、相撲は水辺との関わりがあったことが伺えます。

また、相撲には、盆行事との関わりも見ることができます。千葉県から茨城県にかけて、盆の時期に先祖の乗り物とされる籠を模った盆綱を曳いて地区を巡る行事が行われていますが、その盆綱を土俵にして相撲が行われました。

相撲は、こうした娯楽や祭礼などの身近な行事でもありました。



野見宿禰像

文化7年(1810) 東大社・東庄町宮本

野見宿禰は相撲の始祖といわれる。江戸の力士浜風藤八を願主に、香取郡青馬村(東庄町)の若者中や氏子中で建立された。



八筋川の相撲 平成29年 宝蔵院・香取市八筋川

八筋川の相撲は慶長年間の大水で流されてきた観音様の帰属をめぐる、茨城県の村と相撲で決着をつけたのが始まりといわれる。8月18日の縁日に開かれていたが、現在はその日に近い日曜日に開催している。